

## 第6回 (仮称) 仙台市教育プラン検討委員会議事録

日 時	令和3年1月27日(水) 18:00~19:34
会 場	仙台市役所上杉分舎12階 教育局第1会議室
出席委員	佐藤静委員長、菅野澄枝副委員長、癸生川義浩委員、 佐藤正幸委員、佐藤美佳子委員、佐藤由美委員、長谷川真里委員、 花渕浩司委員、水谷修委員(9名)
欠席委員	佐々木守世委員、山口裕子委員
事務局	副教育長、教育局次長、総務企画部長、教育人事部長、 学校教育部参事、教育人事部参事、生涯学習部長、総務課長
担当課	教育局総務企画部総務課
次 第	1 開会 2 議事 (1) (仮称) 仙台市教育構想 2021 中間案に関する意見募集(パブリック コメント)等の実施結果について (2) (仮称) 仙台市教育構想 2021 最終案について (3) その他 3 閉会
配付資料	1 (仮称) 仙台市教育構想 2021 中間案に関する意見募集(パブリック コメント)等の実施結果の概要 2 (仮称) 仙台市教育構想 2021 中間案に関する意見募集の実施結果一覧 3 (仮称) 仙台市教育構想最終案

## 1. 開会

○事務局 それでは、皆様、本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。皆様おそろいでございますので、「第6回（仮称）仙台市教育プラン検討委員会」を開催させていただきたいと思います。

開会に先立ちまして、会議の成立についてご報告させていただきたいと思います。本日、佐々木委員、山口委員、ご欠席のご連絡をいただいておりますが、9名の委員にご出席いただいておりますので、本検討委員会設置要綱の規定によります定足数を満たしており、本日の会議が成立しておりますことをご報告させていただきます。

それから、お手元の資料を確認させていただければと思います。次第が1枚目にあるかと思います。それから、資料一覧がありまして、右肩に資料1となっているのがA4、1枚のものパブコメ実施結果の概要でございます、その後、資料2といたしまして、2-1、2-2になっているかパブリックコメントの実施結果一覧、A4横のもので16ページがホッチキス止めされているものと、もう1つは有識者等の意見ということで、資料2-2、10ページものA4横の資料があるかと思います。それから、資料3は教育構想2021の最終案の冊子、最後に座席表となっております。皆様にも不足なくありますでしょうか。

ー不足資料なしー

それでは、会議の進行を議長でございます佐藤静委員長にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

## 2. 議事

○議長（佐藤委員長。以下「議長」） それでは、改めましてよろしく願いいたします。

本会議は公開となっております。議事録作成のために議事内容を録音しておりますのでご了承ください。

議事録の確認については、議事録署名委員にお願いしたいと思いますが、今回は長谷川委員にお願いします。よろしく願いします。

それでは、早速、本日の会議の進め方ですけれども、今回は2つ議題があります。議題（1）、議題（2）というそれぞれの議題がありますが、両者密接に関連しますので、2つの議題を一括して事務局から説明をさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

ー全員了承ー

ありがとうございます。

それでは、事務局から説明をいただいた後に皆さんにご意見をいただくという流れで進めたいと思います。

それでは、事務局からお願いいたします。

○事務局 それでは、教育構想中間案に対するパブリックコメントの実施結果と最終案についてご説明させていただきます。

初めに資料1といたしまして実施概要があるかと思えます。それをご覧になっていただきたいと思えます。

昨年の11月25日から12月25日までパブリックコメントを実施してございます。それから、第5回、前回の検討委員会でお諮りしておりました有識者等の意見聴取も実施しており、それぞれの件数を書かせていただいております。

有識者の選定につきましては、委員長と相談させていただきまして、学校保健、文化財、地域防災、社会教育の分野の方々、9名からご意見をいただきますとともに、水谷先生にご協力をいただきまして、大学生との意見交換も行わせていただきました。

本日は検討委員会としての最終案報告に向けまして、パブリックコメントと有識者等からいただいた意見を受けて、最終案に反映する内容に関してのご意見をいただければと考えてございます。

パブリックコメントでいただいたご意見につきましては、仙台市の統一的な取扱いに従って、ご意見に対する考え方をまとめたうえで、ホームページ等で公表することとなっております。

それでは、中身のご説明をさせていただければと思えます。

まず、資料1の概要でございますけれども、パブリックコメントと有識者の意見聴取、それぞれの実施結果でございます。パブリックコメントでは18の個人・団体から69のご意見、それから有識者と大学生からは55件の意見をいただいております。それぞれの意見の内訳につきましては、資料1の表のとおりとなっております。

いただいた意見の一覧表は事前に委員の皆様にもお送りさせていただいておりますので、全てをご説明するのではなくて、ポイントとなる部分、主な修正点についてご説明をさせていただきます。それでは、まず資料3の2ページをご覧になっていただければと思えます。赤字の部分が出てくるかと思えますが、これはパブリックコメントのNo.3の意見をご覧ください。教育大綱と振興基本計画を一体化すること、それ自体が策定の趣旨のように読めるとの意見でございまして、このご意見を受けまして、本市教育の理念と新しい方向性を定め、その下で効果的に教育施策を推進することが策定の趣旨でございまして、それが明確となるよう本文を修正しております。

続きまして、構想の16ページにお進みいただければと思えます。第4章基本理念を記載しているページでございまして、これは、有識者等意見のNo.3と4をご覧ください。

基本理念の中の「自立」という言葉についてご意見をいただいております。基本理念で「自立」を掲げるのであれば、お互いに助け合うという表現も必要ではないかという趣旨のご意見、それから、「自立」という言葉には教育学等で様々な議論がなされておりますことから、無自覚に使用するのは避けたほうがよいという意見でございまして、「自立」につきましては、この検討委員会でも様々なご意見をいただき、修正も加えてきた部分でございまして、事務局といたしましては、「自立」は一律でなく、個性に応じて一人一人の「自立」があるものと捉えておりますことから、そうした意図を表すために、説明文の3段落に「相互に支えあいながら」という記述を追加することで対応してまいりたいと考えております。

この修正につきましては、委員長から修正案を頂いておりますので、後ほど配付をさせていただきます。意見交換もお願いしたいと思います。事務局の案としては、「相互に支えあいながら」を加えるという案でお示しをさせていただいているところです。

続きまして、構想の 29 ページをご覧ください。持続可能な社会づくりに向けた教育の推進について記載しているページでございます。パブリックコメントの No. 10 のご意見をご覧ください。

SDGs の教育の推進は大切だが、取組方針を読んでも具体的な取組が見えないという意見です。SDGs の理念や背景にある課題について体系的に学べるよう、各学校に指針を示しながら取組を進めていくこと、これは事務局として進めているところでございますので、これが分かるように追加で記述をしたところです。

続きまして、30 ページをご覧ください。ICT 教育の推進について記載しているページでございます。これはパブリックコメントの No. 14 と 15、それから有識者等意見の No. 14 です。

ICT 教育の推進に当たりまして、児童生徒の健康面へ配慮すべきのご意見でございます。事務局といたしましても、文部科学省のガイドブック等も踏まえ、例えば定期健康診断の視力検査の結果等をこれから注視しながら、対応を進めてまいりたいと考えておりますので、健康面に配慮を行う旨、取組方針に追加で記述をしております。

それから、構想の 41 ページにお進みいただければと思います。不登校対策の推進について記載しているページでございます。これは、有識者の No. 25、26、27 が不登校対策の推進に関してご意見をいただいております。

在籍学級に入りづらさを感じる児童生徒の学校内での居場所としてステーションを設置するのはよいが、児童生徒が安心して利用できるような配慮が必要とのご意見をいただいております。安心してステーションを利用できるため、例えば実際に教室に入るまでの動線を分けるなどの工夫が必要かと思っております。そうしたような安心して利用できるための環境整備を実施していきたいと考えてございますから、その旨、取組方針に追加で記述をしております。

それから、45 ページをご覧ください。35 人以下学級の実施についての記載でございます。今回のパブリックコメントでも多くのご意見をいただいた部分でございます。パブリックコメントの No. 37 から 43 ですが、小学校における少人数学級の実施をご意見としていただいております。

先日、国におきましても小学校において 35 人以下学級の拡充が示されてございます。本市におきましても、教員の確保、それから教室増の課題を乗り越えながら、35 人以下学級を進めてまいりたいと思っておりますので、その旨、取組方針に追加で記述をしております。

次に、47 ページをご覧ください。教員の資質・能力の向上と人材確保について記載しているページでございます。教員の資質・能力向上について、柔軟な対応力、連携力、調整力、組織的な体制づくりをさらに進める必要がございますことから、本文及び取組方針に追加で記述をしております。

続きまして、55 ページをご覧ください。学校を核とした地域づくりについてのページでございます。これは、パブリックコメントの No. 61、有識者等

意見のNo.42 でご意見をいただいております。

この施策の名称を「学校を核とした地域づくり」としておりました。この名称、地域の核が学校のみであるとか、学校もしくは教員が中心となって地域づくりを進めるように読める等の誤解を招くというご意見をいただいております。そうしたことから、施策名称を「学びを通じた地域づくり」に修正しているところです。

最後に、このパブリックコメント、有識者等の意見聴取の実施も含めまして、これまでの本構想の策定に関します経過を本編の最後に記載するよう事務局のほうでつくってまいりたいと思います。この最終案、この段階では入っていませんが委員長と副委員長とも相談しながら、これから作成してまいりたいと思っております。

説明は以上でございますけれども、先ほど申し上げました基本理念の「自立」について、委員長から修正案を頂いておりますので、配付させていただければと思います。よろしいでしょうか。

－全員了承－

では、追加資料を配付させていただきます。

○議長 事務局から説明いただきました。ありがとうございます。

これから皆さんにそれぞれご意見を伺うこととなります。ちょっと資料を作りましたので、最初に私から補足の説明をさせていただければと思います。

基本理念については検討が必要だと思われましたのでメモを作りました。基本理念に関して、先ほどあったように本構想の姿勢として、突き放す自立ではなくて支え合う自立という姿勢や観点が伝わるが必要ではないかと考えました。

先ほど事務局から説明いただいた3段落目です。3段落目のところの文章をちょっと整えてみました。言葉を補ったり入れ替えたりしながら、先ほど言ったような支え合う自立という姿勢や観点を盛り込んでいます。今配っていただいたメモを読みます。3段落目です。

「一方、現代社会は、情報化やグローバル化の急速な進展とともに、頻発する自然災害や感染症の流行、貧困、環境問題など、多くの地球規模の課題を抱えています。」ここは同じです。変わりありません。「このような状況において、持続可能な未来社会を切り拓いていくための力を備え、一人ひとりが多様な主体と協働しながら相互に支えあう自立した社会の担い手となるよう支援することは本市教育の使命です。そして、予測が難しく様々な変化が起こる時代の中で、困難に向き合ったときにも、強い意志や知恵で乗り越える『たくましさ』と、柔軟に対応する『しなやかさ』を持ち、相互に支え合いながら自立して生きていく力を育むことが肝要です。」

こんなふうに言葉を補いながら修正案を作ってみました。皆さんで検討していただければ幸いです。

それでは、皆さんにご意見をいただければと思いますが、菅野副委員長からお願いしたいと思います。どうぞ。

○菅野副委員長 今、委員長からご提案いただいた自立という言葉に対して、突き放すのではなくという思いを込めるという意味で、「相互に支えあいながら」という部分を最後のほうに持ってくることで、とても印象に残る、そこを訴えようとしているという感じがして、胸に落ちる気がいたしました。

では、たくさんいただきましたパブリックコメント、社会学級の会長としてはかなり痛いものを感じながら拝見いたしました。と申しますのも、これは別に昨日今日、こういうご意見を聞いたわけではございません。ずっと、この社会学級の参加人数の減少や内容についてのご意見を頂戴しておりまして、私たちなりにここ何年か、皆さんから見ればマイナーチェンジと捉えられるかと思えますけれども、変革を続けてきた次第です。そのところが市民の皆様が届くまでには時間もかかるし、効果、成果もなかなか大きくは見えないところかなと思います。私はこの場で、やっぱり自分が頑張ったことは自分で大きい声で言わなきゃ駄目だなというのは学びましたので、もっと情報を世間に発信していく力も必要かなと思いました。

それで、こちらのパブリックコメントに関して思うところは、言い回しや表現の仕方ではありますが、結局のところ子供たちのことを思う、仙台市に頑張ってほしいという応援のメッセージがたくさん寄せられたと解釈いたします。そこに対しまして、事務局から大変真摯な取組で、皆さんの思いを包括するような言い回しにいただいた、まとめていただいた結果があると思いましたので、私はこの案で納得するとともに、自分たちの活動に対してもう少し気合を入れてやっていかなきゃいけないと思わせていただきました。ありがとうございます。

○議長 どうもありがとうございました。

皆さんからよろしいでしょうか。もし質問等ありましたら遠慮なくその都度お願いいたします。

ー質問・意見なしー

それでは、佐藤由美委員、お願いします。

○佐藤（由）委員 初めに委員長からご提案があったところ、資料ですと「切り拓いていくための力を備え自立した人」というところで、かなり自立に対して自分自身でやっていかなければいけないという強いメッセージを感じるころもあり、そういった力を持たなければ、ちょっと生きていけないのかというニュアンスにも取れるのかなと思います。それで、委員長からご提案いただいた案では、自立をするために支え合って、人の力を借りながらも自立をしていく、力を補いながら自立をしていくというニュアンスが非常に伝わると思いましたので、委員長の案に賛成です。

それから、いろいろとパブリックコメントや有識者の方々のコメントに対して、一つ一つご丁寧に回答されていて、今後の方向性や考え方が非常に分かりやすくまとめていただき、ありがとうございました。

私は、学校現場からの意見でしかないのですが、命を大切に教育と道徳教育の順

番を変えたところがあったと思います。学校では、やはり全ての教育活動について、その中で命を大切に教育に力を入れております。その中の一つが道徳教育でもありますので、そこの順番を変えていただいたことはとてもよかったです。

また、命を大切にするというところは、健康の命と、心の命があると思いますので、健康に関するところで専門家の先生方のご意見を頂戴できるような協力体制を取っていただけるといっても、学校現場としては大変自信を持って子供たちに指導できるところかなと考えます。あとは、家庭との連携というところをもう少し学校の現場でも出していく必要があると考えております。

それから、パブリックコメントや有識者の皆様から、ICTの取組について、かなり多くのご意見があったと思います。対面もICT機器も活用しながらやるというのは、素晴らしいとは思いますが、職員は見えないものに向かっていっている不安がとても大きいと感じております。今後、この構想に書くことではないと思いますが、ぜひ教育委員会から、子供たちとか教師の力を最大限に引き出すための具体的な取組であるとか、その取組が教師と児童生徒の力を最大限に引き出すことにどのようにつながっていくかをお示しいただくと、現場のほうも進むべき方向が見えて大変いいのかなというふうに感じました。

○議長 どうもありがとうございます。

よろしいでしょうか。皆さんから質問等はないですか。

ー質問・意見なしー

それでは、長谷川委員、お願いします。

○長谷川委員 パブリックコメント及び有識者等意見に対して非常に真摯に回答をいただき、一つ一つ読むうちに胸が熱くなるような思いでした。最終案も非常に見やすく作っていただき、こんなふうにできたんだと感激しています。

私からは、主に感じた点を3つお話させていただきます。まずは、「自立」については、この会議の場でもいろいろ議論がされたところです。教育委員会の意図するものをきちんと皆さんに伝えるために工夫されて、最終的には委員長案が、言葉の順番を変えることでかなりイメージが変わり、より教育委員会、私たちがお示したいものが伝わると思いますので素晴らしいと思います。これに賛成いたします。加えて、たくましさ、しなやかさの「たくましさ」に「知恵」が入っているところも、とてもいいと思います。単に意志とかモチベーションだけではなく、学びというのはそういう知恵、知識も含めて知恵が必要なので、「知恵」というのも入れていただければと思います。

「自立」に関しては以上です。次にICTです。これもたくさん意見をいただいております。見えないもの、新しいものに恐怖感を感じたりするのは当然あると思いますが、今回のコロナ禍で、諸外国に比べてICTのリテラシーも制度も非常に日本が遅れているのは明らかです。もちろん健康面も慎重に注意しながら、ICT教育は推進すべきである。そこら辺は教育委員会でリーダーシップを取って、慎重に取り組むと同時に、ど

んどん推進していただきたいと思っております。

最後は、このすばらしい構想をどのように市民に伝えていくかです。皆さんからの意見の中でも、知らなかったとか、こういうのはどういうふうに知らされるのですかというようなことが書かれていたと思います。全ての学校に回って説明するのは現実的ではないと思いますが、どんなふうに分かりやすく市民に、学校現場に伝えていくのか、これを今後考えていただきたいと思っております。

○議長 ありがとうございます。

いかがでしょうか、よろしいでしょうか。

ー質問・意見なしー

それでは、花淵委員、お願いします。

○花淵委員 パブコメのご意見を読ませていただきました。学校ひいては教育について関心が高いというのを改めて感じました。私も至極もつともというご意見がたくさんあったなと感じております。あとは事務局もご意見に対する真摯なご回答についても、本当に感謝申し上げたいと思います。

本検討委員会も今日で6回目ですが、この間も文科省の施策そのものが大分変わってきているところもあります。それもタイムリーに取り入れながら、本当にすばらしいものが出来上がったということで感謝申し上げたいと思います。

先ほど委員長からご提案いただきました16ページの基本理念については、非常に分かりやすくすっきりしたと思っておりますが、ちょっと国語的には分からないのですが、前段と後段を結ぶ言葉が「そして」でいいのかどうか。「本市教育の使命です。そして」がいいのか、そこは検討いただければなと思ったところです。

それから、ICTにつきましては、先ほど佐藤由美委員からお話があったとおり、学校現場にもタブレットが1台ずつ入ってきております。保護者やPTAの役員の方と何度か意見交換しましたが、やはり打ち出の小槌のように、タブレットが入ることで学校現場が劇的に変わると思っているようでした。ただ、実際、学校現場はタブレットだけやっているわけではないので、先生方もそれだけということありません。そこについてはぜひ、どこかの場面で教育委員会からアナウンスをしていただいて、もちろん使っていきますが、タブレット来ました、はい、こうなりますというのはなかなか難しいというのが、正直、学校現場として感じているところです。

あと、全体の中身については、大変すばらしくできていると感じております。出来上がったときにダイジェスト版ができるとは思いますが、ぜひそういったところも工夫していただければなと思っております。

この構想の中で実現する学校と地域と保護者が三位一体でやっていくとすると、まさに最後に出てきている仙台版コミュニティ・スクールの推進の中で育みながら、地域、保護者に理解を求めながら進めていくようになるのかなと思ったところです。

○議長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

—質問・意見なし—

ありがとうございました。

それでは、水谷委員、お願いします。

○水谷委員 まず、委員長が作られたところですがけれども、3つポイントがあるのかなと思っていて、「自立した人を育てること」という、これを消したということは私としては賛成で、私自身は自立した人を育てるというイメージがつかなかったというのが1つあるのと、言葉がすごく強烈だということもあり、これを消した、そうじゃなくて生かしたところは「自立して生きていく力を育む」という、そこに力点があるということで、私はこれに賛成します。それから、先ほどのお話の中にもありました「知恵」を入れたということ、これも賛成です。そして、「相互に支えあいながら」というのを最後に持ってくることでここが強調されるということで、この3点について賛成したいと思います。

それから、55 ページの「学校を核とした学びを通じた地域づくりの推進」です。これについては、パブリックコメントを受けて、「学校を核にした」を修正したほうが誤解なく読んでもらえるということなので、そうなのかなと思う一方で、「学びを通じた地域づくり」は何というか言い古された、ある種インパクトの弱い、けれども全体を通じて言えば穏やかに響く言葉だと思っています。仙台市も随分昔から社会教育、生涯学習で使ってきた言葉なので、せつかく5年間で何をやっていくのかというときに、見出しの言葉はすごくインパクトを持つと思うので、少しとがった言葉を使ってもいいのではないかと考えました。ただ、総意として、この言葉を取ったほうがいいということであれば、反対をするわけではありません。

あとは、全体的に、うまくまとまっていると思いました。

私どもの大学の学生たちにプランの中間案を提示し、説明をしていただき、学生たちに考える時間を与えていただきました。しかも意見という形で載せていただいて、学生たちにとってはとても勉強になりましたし、それをきちんと受け止めていただいたということで、若い人たちにとっても意味あるプランづくりであり、私どもとしても非常に感謝しております。ありがとうございました。

最後に、この委員会に参加させていただいて、学校の校長先生方とこれまでお話をさせていただくときには、社会教育とか生涯学習の場での話合いが多かったのですが、やっぱりこういうところでの発言内容とは違って、私としてはすごく勉強になりました。本当にありがとうございました。

○議長 ありがとうございます。

皆さんから何かありませんか。よろしいでしょうか。

—質問・意見なし—

ありがとうございました。

それでは、佐藤美佳子委員、お願いします。

○佐藤（美）委員 委員長からいただいた基本理念に関しては、私も賛成いたします。やっぱり個人としては、これまで自分の子供を3人育ててきましたけれども、その自立するということに関して、すごく不安があっているんな面で迷って悩んで来ましたが、やっぱり地域や周りのお友達に支えてもらって今日があります。今後、若いお母さんたちが子供を産み育むための、すてきな文章になったのではないかなと思います。これが専門の方だけではなく、一般の方が読んだときに仙台市の考え方が伝わることにすごく共感が持てますので、ここの部分の文章は変えてよかったなと考えております。

いただいたパブリックコメントや有識者等の意見について2点ほどお話しします。

私の意見としては、パブリックコメントの8ページ、ICT環境の活用で、現在は小さい子供たちが幼児期から既に携帯やタブレットは当たり前手にしている世の中です。説明しなくても当たり前のように使って遊んでいるので、学校に入って、タブレット1台ずつとなったときに、子供たちの方がのみ込みが早く、大人が逆についていけないというのが本音ではないかなと考えております。私の娘は今大学生ですけども、オンライン授業が当たり前になってきて、私が隣で見えても分かりにくいものを娘たちはすぐさま理解して、それをのみ込んでやっています。これが授業展開をしていくとなると、もう小学生や中学生、高校生にとっては当たり前の環境だと思いますし、今後、整備が進むことによって、家庭での環境整備というところに大きく負担が行くのではないかなと思いますので、この辺の配慮は必要になってくると思っております。

2つ目は、パブリックコメントの9ページ、学校の先生方の負担はすごく大きいものだと思っております。学級編制の標準は35人になりましたが、子供を育てていく中で、自分の最初の子のときは40人クラスが当たり前で、それこそ先生の目の届かないところがたくさんあって不自由な部分を強いられた部分もありましたが、これが35人になって、いずれは欧米並みの20人に減らしていけるのであれば、各教室で先生が子供たちに対する目配り、気配りが見える教育、伝わる教育になるのではないかなと思っております。いずれは少子化により、空き教室も出てくる中で、教室を有効的に活用するとともに、教育の充実を考えると、子供たちが安心して本当に楽しく学校を卒業してよかった、社会に出ていく自信をつけられる教育を、学校と保護者と地域が一体となって進めていけたら、よりよい子供たちの未来に対する希望につながるのではないかなと感じております。

○議長 ありがとうございました。よろしいでしょうか。

－質問・意見なし－

それでは佐藤正幸委員、お願いします。

○佐藤（正）委員 本日に事務局の方々に教育構想をまとめていただいたこと、本当に頭が下がる思いであります。

まず1つ目として、委員長から出していただいたこの修正版ですが、軟らかい文章に変わってすごく読みやすいなと思いました。ただ、1点だけ、「一方」からの3行目に「持続可能な未来社会を切り拓いていくための力を備え」、その次に「一人ひとりが」と入っていますけれども、この最初の文が「一人ひとり」にかかってくるのではないのかなと。一人ひとりがこの力を備えて、協働し支えあっていく社会の担い手となるということであれば、最初の文章の前に「一人ひとり」を持ってきたほうが、全体にかかってくるのではないかなと、読んでいて思いました。でも、内容的にはそういうことなのかなと思っておりますので、この趣旨で賛成をさせていただきたいと思います。

あと、パブコメとか頂いた資料を見て、私の思った点はもう修正をさせていただいてあるところです。例えば、これ自体が学校現場に落ちてくるわけではなくて、これの下で杜の都の学校教育がつけられていくわけです。これの趣旨をきちんと反映した形で、例えばSDGsをそれぞれの項目のどこでどう指導していくのか、どの場面がその場面に当たるのか、そういうようなことをぜひ1つ落とした杜の都の学校教育の中で実現をしていただければなと思っています。

あともう一つ、これは事務局の方々に改めてお願いしたいところですが、こういう基本構想とかで予算取りをしていただいて教育予算をいっぱいつけていただくこと、すごくありがたいです。しかし、一つの事業をすることで、やっぱり学校現場、その事業のために何か動かなければいけないというのが現実です。例えば先ほど来出ているタブレットの話もそうですけれども、先週うちの学校でタブレット端末のアカウントを1学年だけ全部アカウントを入れて、使えるようにしたところです。でも、Wi-Fiの環境が不安定で一気に入れなかったもので、問合せをしなければいけない。そうすると、そのための先生の時間がどんどん取られていって、授業、丸1時間潰してしまっています。だから、そういうところも、学校現場にやれと投げられてしまうと、やっぱりつらいなと。例えば、国で言っているICT支援員を各学校に配置をさせていただくとか、そういうことをしていただかないと、先生たちのやることは、いろんな事業をすれば増えていくということを意識していただきたい。例えば、アカウントにしても、この3月でまた全部変えなきゃいけない。その作業は誰がやるのか、現場としての声はそんなことがいっぱいあります。そういう意味で、ぜひ予算取りをしていただいて、そして事業を起こすときに、学校現場の負担が増えていかないのか、それをぜひ考えていただければなと。そのための教育構想であってほしいなと思っています。どうぞよろしく願います。

○議長 ありがとうございます。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

－質問・意見なし－

ありがとうございます。「一人ひとりが」のところは、佐藤委員がおっしゃるとおり、前に持ってきたほうがいいかもしれないですね。ありがとうございました。

それでは、癸生川委員、お願いします。

○癸生川委員 このような委員会に携わるのは初めてなもので、このようなパブリックコメントも初めて拝見しました。本当に多岐にわたる、しかもいろんな立場の方からのいろんな視点のご意見について一つ一つ丁寧に答えていただき、非常にすばらしいことだと思って感謝しております。

初めに、提案のありました基本理念について、委員長から提案されたご意見について、支えあう自立というところが、やはりこの教育構想全てに流れる点ではないかなと思っていました。並べ替えていただき、言葉の加除をしていただいたということで、非常に読みやすくなったのではないかと思います。

それから、2つ目に、この有識者のコメント、それからパブリックコメントのほうを拝見したときに、非常に不登校に関心が高いなと思いました。特にステーションの設置に関して幾つも見解があって、やはり今のコロナというこの社会不安がある中で、教育に対しても不安が広がっているのではないのかなと懸念しています。先ほどタブレットの話が出ましたが、そういったところに対する期待もあるのかもしれないなと思っています。こういった不安なんかに丁寧な回答をいただき、非常にありがたいことだと思っています。

最後に、パブリックコメントのNo.68 ですけども、実際この教育構想をどのような形で教育を担う現場に下ろしていくのかと。先ほど佐藤正幸委員から杜の都の学校教育がこれから出てくるというようなことで、教育現場についてはそうですね、例えば社会教育の現場、あるいは家庭にどのように周知していくのか、そういったところを丁寧にさせていただけたらと考えております。ただ、一方で、やはりそのために時間を取るというのは、なかなか現場にはございませんので、こういったやり方が一番好ましいのか、ご検討いただけたらと考えております。

○議長 ありがとうございます。この後のことになりますね。ありがとうございます。よろしいでしょうか。

－質問・意見なし－

皆さん、ご意見いただきましてありがとうございます。おおむね、この仙台市教育構想2021 がご承認いただいたということかと思います。ありがとうございます。

全体を通して、もう一度、皆さんから何かご意見をいただければと思うんですけども、先ほど水谷委員さんのほうから、55 ページの「学校を核とした」というところの表現をめぐってご意見をいただきました。事務局から何かコメントをいただけるでしょうか。

○事務局 私どもとしては、パブリックコメントの一つの効果が受け手に趣旨がきちんと伝わっているか確認することとさせていただきます。この「学校を核とした地域づくり」というのも、文科省でも使われている言葉でございます。そうした言葉を使って施策名

としたわけですが、まさに読んでいただく方の視点、それを踏まえたと、受け止めとしては、まさにパブコメの中にありますけれども、学校が地域づくりを行う、もしくは先生方が地域づくりを行うと読めてしまうような施策名のつけ方は、私どもとしても意図するところではございません。まさに地域づくりの主体として学校と地域が協働して、パートナーシップの下にやっていくというところにありますので、「学校を核とした」というのはちょっと強過ぎるのかなと、パブリックコメントを受けて思ったところです。そうしたところからすると、私どもの意図を正確に伝えるためには、このような形で修正したほうがいいのかと思っております。

なお、取組の方針の中では、学校を基盤として生涯学習活動を推進するとか、地域学校協働活動に取り組んでいくというところを記載させていただいておりますので、この修正のほうが、受け止めていただく方に私どもの意図がきちんと伝わると考えております。

○議長 ありがとうございます。

皆さんからご意見等がありますか。いかがでしょうか。

○水谷委員 私としては、先ほど申し上げたとおりで、とがったほうがいい、それから、コミュニティ・スクールの学校協働活動の設置の規則でしょうか、あの前文の中にもこの言葉がうたわれていて、この言葉、学校を核とした学びはそんなに違和感がある言葉でもないのかなと思ってはいますけれども、全体としてそのほうがいいということであれば、申し上げるようなことはありませんので。

○議長 ありがとうございます。

「学びを通じた」というちょっとソフトな表現になりますが、これでよろしいでしょうか。

ー全員了承ー

ありがとうございます。

それでは、この形で、「学びを通じた地域づくりの推進」という表現でお願いしたいと思います。ありがとうございました。

もう1点、花渕委員から、この基本理念の先ほど皆さんに承認していただいた修正中の「そして」という接続詞ですね。これは、私もいろいろ考えていたのですが、思い浮かびませんでした。意味が取れないわけではなくて、並列した感じで文章が続く形にはなりますが、こんな形でよろしいですか。

○花渕委員 ちょっと気になったという程度なので。

○議長 そうですか、ありがとうございます。

それでは、それ以外に、どうぞ皆さんのほうから何かありましたらお願いいたします。

○花渚委員 46 ページの働き方改革の主な事業に、ぜひ入れてほしいなと思うのは、電話の自動音声案内です。今までですと7時8時まで保護者の電話を待っていることがあり、これがなくなったことで先生方の働き方改革に大きな変化が見られております。ぜひ入れていただけないかなと感じていたところです。

それから、あと、これは今回の構想には入れなくていいと思いますが、5年間という話がありました。国のほうで国家公務員の定年延長が廃案になったということがありますが、恐らくこの5年の間に地方公務員まで定年延長は下りてくるのかなというところ、おそらく教育人事部中心に考えられているとは思いますが、そこに大量退職ということもあり、定年延長との絡みで、この恐らく5年の中で出てくるのかなというふうに感じているので、検討はしていただければなと思っていますところ。

○議長 ありがとうございます。

事務局からコメントいただけますか。電話の自動音声案内の話です。

○事務局 例示の中で記載したいと思います。ありがとうございます。

○議長 ありがとうございます。

それでは、それ以外にいかがでしょうか。癸生川委員、お願いします。

○癸生川委員 特別支援のところ、43 ページについて1つお願いができたと思います。

高校については、各校の役割みたいなことが書いてあるんですけども、鶴谷特別支援学校については唯一の市立の支援学校ということがあって、この間、文科省のほうでも有識者会議でセンター的な役割をきちんと果たしていくよという話合いがされたところです。そういったところについて、一言、例えば教員の育成に係ることですとか、それから派遣等で市内の学校との連携を行っていますので、そういったところを一言付け加えていただくと非常にありがたいなと思います。もし今からできるのであれば、お願いしたいと思います。

○議長 どのあたりに、記載するのが良いのでしょうか。

○癸生川委員 43 ページの取組方針に記載して頂ければと思います。

○議長 啓発する事業のあたりになりますか。これにどんな形で付け加えればいいですか。特別支援学校の役割みたいなことですか。

○癸生川委員 そうですね。

○議長 お願いします。

○事務局 ありがとうございます。

取組方針の3番目に、「支援スキルの向上を図ります」ということで、まさにここが特別支援に関するセンター機能と全体の底上げを図る文章になっていますので、ここの辺りでセンター機能と各学校全体の底上げを図るような文章を、癸生川委員とも相談させていただきながら、記載することを考えたいと思います。

○議長 ありがとうございます。癸生川委員、よろしいですか、そんな形で。

ー癸生川委員より了承ー

それでは、そのように進めたいと思います。ありがとうございます。

ほかにございませんか。佐藤美佳子委員、お願いします。

○佐藤（美）委員 先ほど言うのを忘れてしまったのですが、パブリックコメントの No. 4、危機対応力の育成で「自助の力」、「共助の力」と示されていますが、「公助の力」というのは一言も記されておられません。震災から約10年がたとうとしておりますが、震災が起きたときには、本当に耳が痛くなるぐらい自助・共助・公助と言われていたので、市民の頭から離れない言葉なんじゃないかなと思うので、12ページの下から丸2つ目のところの「震災の経験と教訓を活かした危機対応力の育成」という部分に「公助の力」という文言を加えていただけることで、この赤線の入った文章が生きてくると思うんですけども、いかがでしょうか。

○議長 なるほど。いかがですか、事務局。

○事務局 赤線で追加させていただいた「行政として必要な支援」、これが「公助の力」だと思いますので、これと同じ内容になりますけれども、並列で入れるかどうか、どういったような表現がいいのかは検討させていただきながら、入れる方向で考えさせていただきたいと思います。

○議長 佐藤美佳子委員、よろしいですか。

○佐藤（美）委員 はい、ありがとうございます。よろしくをお願いします。

○議長 ありがとうございます。

そのほかございましたら、よろしいでしょうか。

ー質問・意見なしー

どうもありがとうございました。

長い時間、検討していただきましてありがとうございます。皆さんからいただいた修

正点、付け加える点については、最初に事務局からお話がありました策定経過の部分も付け加えるという作業が残っておりますので、それと併せて、私と副委員長預かりということで確認しながら進めさせていただければと思います。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

その上で、2月3日、水曜日に教育長に検討結果を報告させていただきたいと考えております。よろしく願いいたします。

このような内容で、承認を得たという形にさせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

－全員了承－

ありがとうございました。

○事務局 すみません、本日欠席されている委員からコメントをいただいておりますので、ご紹介させていただければと思います。

佐々木委員からのコメントといたしましては、パブリックコメントと有識者等の意見を読ませていただきました。人によって課題や卓越している分野が違うこと、言葉一つを取っても様々な見解があること、ご意見をいただいた方々に真剣な思いがあること、その全てが仙台市の教育水準の高さであることを率直に感じました。35人学級の意見が多かったのも印象に残りました。場所や人材という現場の課題を棚上げにして実現されるわけにはいきませんが、目標や方向性を示すステージに入っているとも感じましたというご意見でございました。

それから、山口委員からもコメントが寄せられております。委員の皆様の専門的な知見からご意見が反映されて、すばらしいものになったと考えてございます。これをどう周知して実践していくことが大事かと思っているというふうなところでございます。現場への周知、保護者への周知をはじめ、多くの市民への周知が図られてこそ、生きてくるものだと思います。各所の連携を今後ますます大事にさせていただければというご意見をいただいております。

以上でございます。

○議長 ありがとうございました。

以上で本日の議題、全て終了いたしました。大変貴重なご意見をたくさんいただきました。本当に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

本委員会は今日が最後ということになりますので、最後に委員の皆さんから、一言ずつ感想を述べていただきたいと思います。癸生川委員からお願いします。

○癸生川委員 仙台市の今後の教育構想を決めるという、このような貴重な機会に参加させていただきまして非常にありがとうございました。いろんな立場の方、また、いろんな視点からの意見を聞くことができ非常に勉強になりました。

これから、仙台市の我々教員として教育現場でこの構想を生かせるように尽くしてま

いりたいと思います。今後ともどうぞよろしく願いいたします。大変どうも、事務局の皆様、お疲れさまでございました。

○佐藤（正）委員 6回参加させていただきました。すみません、勝手なことばかり言って本当に申し訳なかったんですが、やっぱりパブコメをまとめていただくのって本当に大変だなと思っています。いろんな意見を、どう答えようかって、やっぱり本文をつかっていく以上に大変な作業だと思っています。本当にこの最後のまとめ、しっかりやっていただいて、いいものが出来上がったなと思います。先ほども言ったとおり、いかに現場でこれを生かしていくかというのがこれからの大きなところだと思います。期待しています。

○佐藤（美）委員 私もこの委員会に携わらせていただいてすごくありがたいなと思っています。やっぱりこれまで子育てをしていて見えなかったものが、こういった形で見えたことと、仙台市のこの教育構想が今後反映していけるということがすごく役に立つと思います。学都仙台というだけあって、認識の高さがすごくうかがえた時間でもありました。ここで3人の子育てをできてよかったなと改めて痛感した次第です。自分の子供たちが結婚して子供を持った頃には、もっともっと多分こういった構想が充実していると思いますので、期待したいと思います。事務局の皆さん、ありがとうございました。

○水谷委員 私は先ほど先走って感想らしきことを言ってしまったので、もう改めてお伝えすることはありませんが、本当に、私自身もそうですし、学生にとってもいい学習の機会を与えていただきました。学生はこれをどういうふうに見るのかなと、何を考えるのかなと思っていたら、結構、ここに書いてあることを見ると、学生たちも受け止めて、それなりに意見を言おうという意思が感じられました。そういうことは、これができた後もやっぱり若い人たちにこの構想を伝えていく、そういう機会があつて、若い人たち、学生ばかりではなくて、学生は学習の機会に恵まれているからいいですけども、それ以外の若い人たちに仙台市が考えているこの構想の基本的な考え方を伝えていきながら、この後も若者と行政とが一体となって何か教育の機会をつくり出していける、今、市民センターなんかでもやっていますけれども、そういうところにもうまく生かしていけるような何かができるといいのかなと。学生たち、若者たち、捨ててもいいですけども、捨てたもんじゃないので、そういう機会がもっともっとあるといいのかなとも思いました。どうもありがとうございました。

○花瀧委員 私も6回、全て参加させていただきました。本当にありがとうございました。

正直申し上げて、2回目、3回目のときはちょっと不安になったところもあったんですが、さすが教育委員会の事務局の方々は立派なものをつくり上げていただき、本当に感謝申し上げます。

最終的にこの構想が定められて、(仮称)が取れるのかなというところを何か改めて感慨深く思っているところでございます。あとはこれが、脚本、台本は出来上がりました

ので、学校現場でどのようにこれを生かしていくのかにかかっていると思っています。本当に長い間ありがとうございました。感謝申し上げます。

- 長谷川委員 まず、このような機会をいただきまして改めてお礼申し上げます。様々な意見に触れて視野が広がりましたし、最初に申し上げたように4月に仙台市に引っ越してきたのでまだ1年も経ちませんが、仙台市の教育というものがよく分かったと思っております。

私は大学の教員としてテーマが子供の発達ですし、学生にも教育心理学ということで教授をしておりますので、自分の研究のみならず、学生の教育にも生かしていけたらと思っております。本当にありがとうございました。

- 佐藤（由）委員 このような機会を与えていただきまして、本当にありがとうございました。6回参加させていただきましたが、毎回勉強させていただき、仙台市が進むべき方向を先んじて知ることができたということは、非常に私自身もラッキーだったなとも考えております。大変素晴らしいものにまとめていただきまして、事務局の皆様にも心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

学校の声、私は現場の状況をお伝えしているところが多かったかなと思いましたが、現場がこういう状況だということをお伝えできたのも、本当によかったなと感じております。自分のことで申し訳ないんですが、残り僅かですので、その間にできるだけこの構想が現場に下りやすくなるように、方向性が示していけるように過ごしていけたらと思います。いろいろとご指導いただきましてありがとうございました。

- 菅野副委員長 本当に今年ですかという感じですね。コロナですし、SDGs 未来都市にもなっちゃうし、震災10年になりました。本当にこんな年に未来を決めていかなきゃいけない、計画を決めていかなきゃいけない、こんな年に皆さんの知恵を集めたということが、本当にこれだけの困難さを抱えて計画を立てて、このくらいの温かい、子供たちのことを考えた案が、仙台市のことを考えた案がつくられたということに本当に感動しています。裏に回ると、事務局の皆さんの器の大きさに本当にびっくりするほど感銘を受けているところです。

この会議で印象深かったのは、正幸委員が先生方のことをいつもおっしゃっている。私、初めて先生とお会いしたとき、たしか支援本部のスーパーバイザーをしていた頃ですね。その頃にシンポジウムでお話させていただいたときに、本当に熱い先生だとあの頃から思っていたんです。あのときも教育委員会にいらっしゃって、地域を物すごく大事にしてくださって、それこそ残業残業という印象を持った方が、こんなにも部下といますか先生方のことを考えられているということは、多分ご自分が一番無理していると思いませんかとも思うんです。大丈夫だ、無理するなと言う人が一番無理していると思います。

こういう構想ができました、先生方、もう少し肩の荷を下ろしてくださいということであれば、そこの間にいらっしゃる皆さんは多分頑張られると思いますが、誰かが背負わなきゃいけないとか、誰かだけが無理しなきゃいけないということじゃなく、仙台市

全体で、もちろん地域住民含めまして、教育に関して興味を持ち、知らなかった、分からないではなく、自分から学んでいく、知っていく姿勢というのをお伝えしていけるように頑張っています。このような機会をいただきまして本当にありがとうございます。この計画を住民目線で皆さんのほうにお知らせしていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

○議長 それでは、最後、私のほうからも一言御礼申し上げます。

本当に時間のないところで、大丈夫かなという懸念もありましたが、皆さん、本当にお力を貸していただき、事務局もとても頑張ってください、何とかまとめることができました。ありがとうございました。

この構想は5年ということが考えられていますけれども、すぐにでもいろいろ修正しなければならないところ、あるいは工夫しなければならないところなどが、~~またまた~~すぐに出てくるのではないかと思っております。一つの方向性を示したということだと思いますので、このとおりにガチガチにやらなければならないということではなくて、一つの土台として生かしていただければいいかなと期待をしているところです。

今日が最後ということになりますが、皆さん、どうぞお元気にお過ごしください。ありがとうございました。

それでは、事務局に進行を戻したいと思います。

### 3. 閉会

○事務局 皆様、本当に長時間にわたりましてご議論いただきましてありがとうございます。

それでは、この場をお借しまして、事務局を代表いたしまして副教育長より一言御礼のご挨拶を申し上げさせていただきます。

○副教育長 それでは、閉会に当たりまして一言ご挨拶させていただきます。

まず、昨年5月の第1回以来、皆様方には本当に真摯なご議論をいただきましてありがとうございました。皆様の知見、ご経験に基づく様々なご意見をいただきまして、この構想にそのいただいたご意見が表現として載るかどうかというマルかバツかという話ではなくて、いただいたお話を我々教育局として胸に刻みまして、これに基づきいろいろな様々な事業、施策を行っていく上で折に触れて思い出しながら、あのとき正幸委員がああおっしゃったなと思い出しながら進めていくようにしていきたいと思っております。

委員の皆様方には、今後も仙台の子供たちの健やかな育ちのためにそれぞれのお立場でまたご協力をいただけることと思っております。本委員会、誠にありがとうございました。

○事務局 それでは、今後のスケジュールを改めて申し上げさせていただきます。

皆様から本日いただいた意見、事務局で整理させていただきます。委員長、副委員長ともご相談、ご確認をさせていただきますながら、検討結果としてまとめて最終案といたしまして、2月3日に教育長に報告させていただければと思っております。その段階

におきましては、皆様方にメール等でも共有をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、第6回（仮称）仙台市教育プラン検討委員会、それから本検討委員会、閉じさせていただきたいと思います。

皆様、本当にありがとうございました。お疲れさまでございました。

この議事録について、会議の内容と相違がないことを認める。

令和 年 月 日

(仮称) 仙台市教育プラン検討委員会

委 員 長

---

署 名 委 員

---